

# まだ二重入力続ける？ Salesforce連携 「後回し」企業が知らない、 データ連携の威力

CRM(顧客管理)やSFA(営業管理)などの機能を中核としたクラウドプラットフォームとして、世界中の企業で導入・活用されている「Salesforce」。ただし、その活用が進めば進むほど、周辺システムとのデータ連携の課題が顕在化する。ERPを含む周辺システムとSalesforceをつないでデータを有効活用するには、どのような方法があるのだろうか。ここでは、最も簡単に効果的な方法を解説する。

## まだまだ便利になる！ Salesforce導入企業が向き合うべき問題

日本でも多くの企業が導入しているSalesforceは、2019年にはデータ分析ツールのTableau、2021年にはチャットツールのSlackを買収するなど、データ分析やコミュニケーションのプラットフォームとしても、その存在感を高めている。

ただし、ビジネスにおけるSalesforceの重要性が高まれば高まるほど、「ある問題」がSalesforce導入企業を悩ませている。それが、ERPなどの周辺システムとの連携だ。

たとえば、Salesforceに登録された取引先情報をERPシステムに反映させるには、ERPシステムに同じ情報を再度入力しなければならない。あるいは、Salesforce上で在庫情報を表示するために

は、在庫を管理しているシステムからSalesforceに最新の在庫情報を取り込まなければならない。

もちろん、データを自動的に連携できれば良いが、現実には人手による入力やバッチ処理に頼っているケースが多い。このため、二重入力というムダな作業が発生するだけでなく、リアルタイムにデータを反映できず、営業情報を基にマーケティング施策を迅速に立案・実行したり、スピーディーに経営判断したりといったデータ活用が困難になってしまう。

こうした状況を打開し、データをリアルタイムに活用できるようにするために、企業はどのような対策をとれば良いのだろうか。

## Salesforceと周辺システムをつなぐ3つの方法

長年にわたって、Salesforceと他システムのデータ連携を支援してきたのがパナソニック デジタル株式会社(以下、パナソニック デジタル)加藤栄二氏だ。加藤氏は、こうした問題が起きる背景を次のように説明する。

「連携するのに専門的な技術・スキルが必要になるのが1つの理由です。もう1つはクラウドならではの理由です。スモールスタートでSalesforceを導入した結果、想定以上に利用が拡大し、当初は考えていなかった他システムとの連携が必要になるケースが多いのです」(加藤氏)

では、実際にデータを連携するには、どのような方法が考えられるのだろうか。加藤氏は次の3つの方法を挙げる。

1. Dataloader(データローダ)を使う
2. Web APIによる開発
3. データ連携ツールを使う

DataloaderはSalesforceに付属するデータ連携ツールだ。ただし、サーバではなくクライアントで動作するため、大量のデータを連携するには向いていない。Web APIを使う場合は、Salesforce側のAPIの仕様を理解したうえで、専門のエンジニアによる開発が必要となる。このため、時間とコストがかかるのが一般的だ。

「最も現実的で効果が高いのが、3つ目のデータ連携ツールを使う方法です。ノーコードのツールを使えば、APIの知識がない社内の人材でも連携の仕組みを構築できます。また、Salesforceと複数のシステムの連携を一元的に管理・運用できるメリットもあります」(加藤氏)

そして、Salesforceと他システムをつなぐデータ連携ツールの中でも、長い歴史を持ち、多くの企業に導入・活用されているのが、パナソニック デジタルの「ASTERIA Salesforceアダプター」である。



パナソニック デジタル  
加藤 栄二 氏

## ノーコードで直感的に開発可能、 大量データ連携も対応

「ASTERIA Salesforceアダプター」は、アステリアが開発したデータ連携ツール「ASTERIA Warp」でSalesforce連携を実現するアダプター製品だ。

ASTERIA Warpはさまざまなシステム間を連携できる汎用プラットフォームであり、そこに

ASTERIA Salesforceアダプターを追加することで、Salesforceを起点に多様なシステムを簡単につなぐことが可能となる。

その特長について、吉本吉博氏は次のように説明する。

「ノーコードでSalesforceと周辺のシステムをつ

## データ連携ツールとは

パナソニック デジタルが開発した“ASTERIA Salesforceアダプター”は Salesforceと他のシステムをノーコードで双方向連携を可能にします。



※ASTERIA Warpはアステリア株式会社が開発したデータ連携ツールです。ASTERIA SalesforceアダプターはASTERIA Warpのオプション製品です。

ASTERIA Salesforceアダプターとは

なぎ、双方向でデータをやり取りすることができます。具体的には、マウス操作でアイコンを配置してつないでいく簡単な操作で連携の仕組みを開発することができます」(吉本氏)

開発ツールとしては、開発したところまでの動作を1つずつ実行・確認できるのが特長だ。「データの取得」「取得したデータの変換」「変換したデータの表示」などの動作を、1つひとつステップを追って実行して確認できる。

「他のツールの場合、作ったあとでプログラムに変換してから実行する必要がありますが、ASTERIA Salesforceアダプターは作ったところまでを逐次実行できるので、動作を確認しながら開発を進めることができます」(吉本氏)

大量のデータを一度に処理できる「Bulkアクセス」に対応しているのも特長の1つだ。

「SalesforceとAPIでデータをやり取りする場合、一度にやり取りできるデータ量が制限されていま

す。これは『ガバナ制限』と呼ばれるもので、特定のユーザーがSalesforce側の共有リソースを独占して、他のユーザーに影響を与えないための仕組みです。このため、数万件規模のデータを処理しようとするとき時間がかかります。しかし、ASTERIA Salesforceアダプターであれば、制限を気にすることなく大量のデータをやり取りできます」(吉本氏)

常に機能がアップデートされているのも特長だ。たとえば、年に3回実施されるSalesforceの定期バージョンアップへの対応、ユーザーの声を反映した機能追加なども、随時行われている。

「直近では、Salesforceへのログインとデータ取得が2段階に分かれているのが手間だというユーザーの声に対応するため、1回の操作でログインとデータ取得を実行できるように改善を行いました。こうした改善を積み重ねているのも我々の強みだと考えています」(吉本氏)

なお、ASTERIA Warpはデータ連携ツールの分



パナソニック デジタル  
吉本吉博 氏

野で国内シェアトップを誇り、パナソニック デジタルとASTERIAは、20年以上にわたってパートナーの関係にある。そして、ASTERIA Salesforceアダプ

ターも、2006年にリリースされた歴史のあるツールである。



パナソニック デジタルは、ASTERIAのデータ連携ソリューションに20年以上取り組んでいる

## スクラッチ開発より開発・運用工数を7割以上削減した事例も

ASTERIA Salesforceアダプターは歴史の長いツールだけに、導入している企業も多い。AIを活用したデータ分析、コンサルティング事業を展開するブレインパッドもその1社だ。

同社は基幹システムを再構築するにあたって、Salesforceをはじめとする複数のシステムを組み合わせる構成を選択したため、システム間を連携するツール導入が急務となった。

「システム連携を内製で開発する方針であったこと、一度に大量のデータを取得する必要があったことから、ノーコードでBulkアクセスに対応した『ASTERIA Salesforceアダプター』を導入いただきました。その結果、スクラッチ開発と比較すると開発・運用工数を7割以上削減することに成功し、現在ではAmazon QuickSightやMicrosoft Power BIなどのBIツールとの連携も実現されています」(加藤氏)

なお、パナソニック デジタルは自社内の業務でもASTERIA Salesforceアダプターを

活用している。このため、ASTERIA WarpとSalesforceの両方に精通したエンジニアが多数在籍している。

「以前、ASTERIA Warpを使っているお客さまから、外部のコンサルタントに相談しても半年間解決できない課題があるとご相談を受けました。弊社の知見を動員し、約1週間でサンプルを作ってお提案したところ、とても喜ばれたことがあります」(加藤氏)

同社では、その高い技術力を生かして、ASTERIA WarpおよびASTERIA Salesforceアダプターの導入から開発、運用、内製化まで支援している。国産のツールとして長い歴史を持つだけに、コミュニティー活動が活発で情報を得やすいのも特長だ。

Salesforceと他のシステム間の連携に課題を感じているなら、パナソニック デジタルに問い合わせてみてはどうだろうか。必ず何らかの提案を得られるだろう。

### ●お問い合わせ

#### パナソニック デジタル株式会社

東京 〒104-0061 東京都中央区銀座8-21-1 TEL 03-5148-5578

大阪 〒530-0053 大阪市北区末広町2-40 TEL 06-6315-8634

お問合せフォーム：<https://service.digital.panasonic.co.jp/contact>

ソリューション紹介URL：<https://service.digital.panasonic.co.jp/solution/data-driven/asteria>